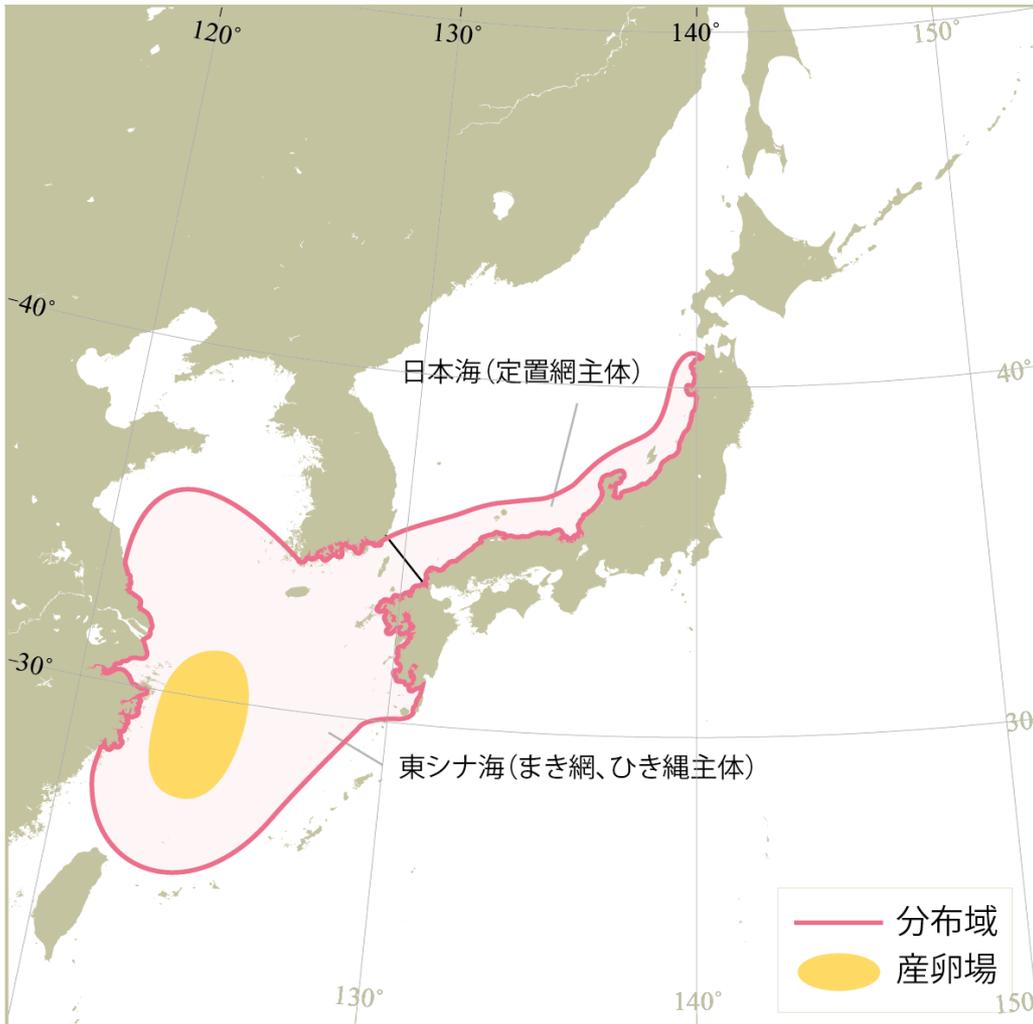




サワラ東シナ海 令和3年度資源評価結果

生物学の特性

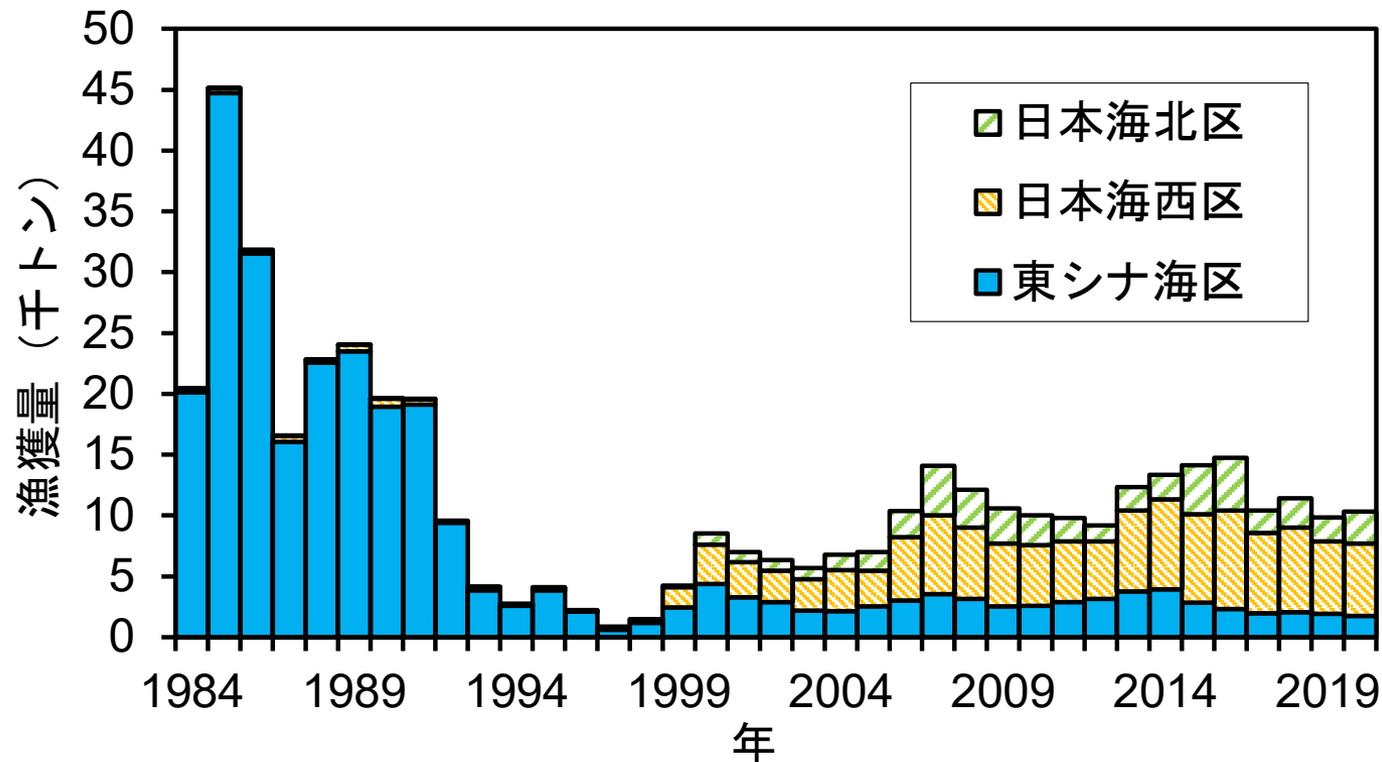


生物学の特性

- 寿命:6歳程度
- 成熟開始年齢:
1歳(一部)、2歳(大部分)
- 産卵期・産卵場:
3~6月(東シナ海、黄海)
- 食性:
生活史を通じて魚食性が強い
- 捕食者:
不明

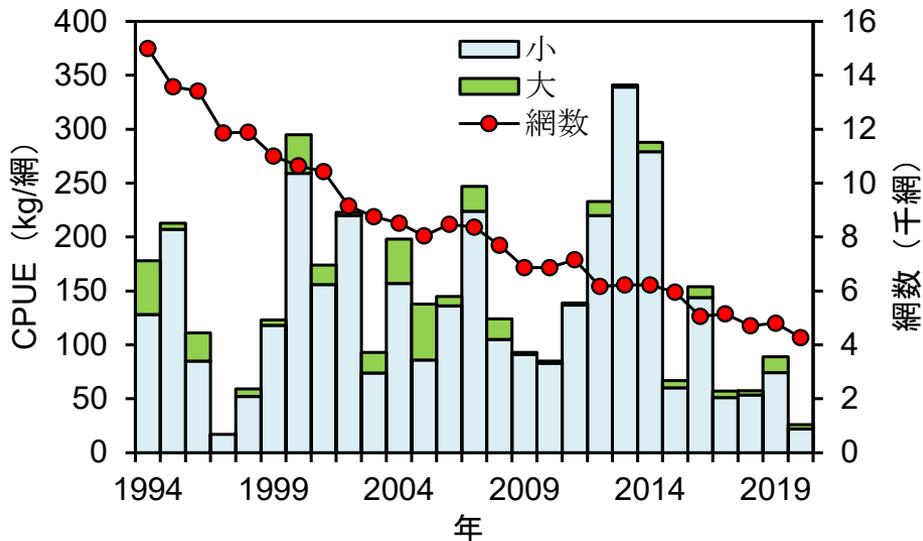
- 主漁場は東シナ海～日本海

漁獲の動向①

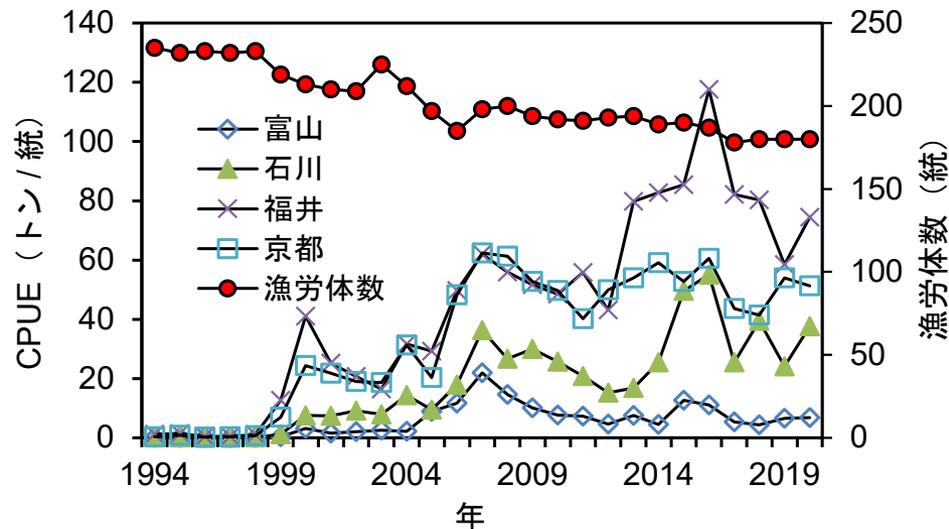


- 主漁法は東シナ海の大中型まき網、日本海の大形定置網
- 1997年以降、日本海での漁獲量が増加
- 2020年の漁獲量：10,329トン（うち日本海が80%）

漁獲の動向②



東シナ海の大中型まき網銘柄別CPUE

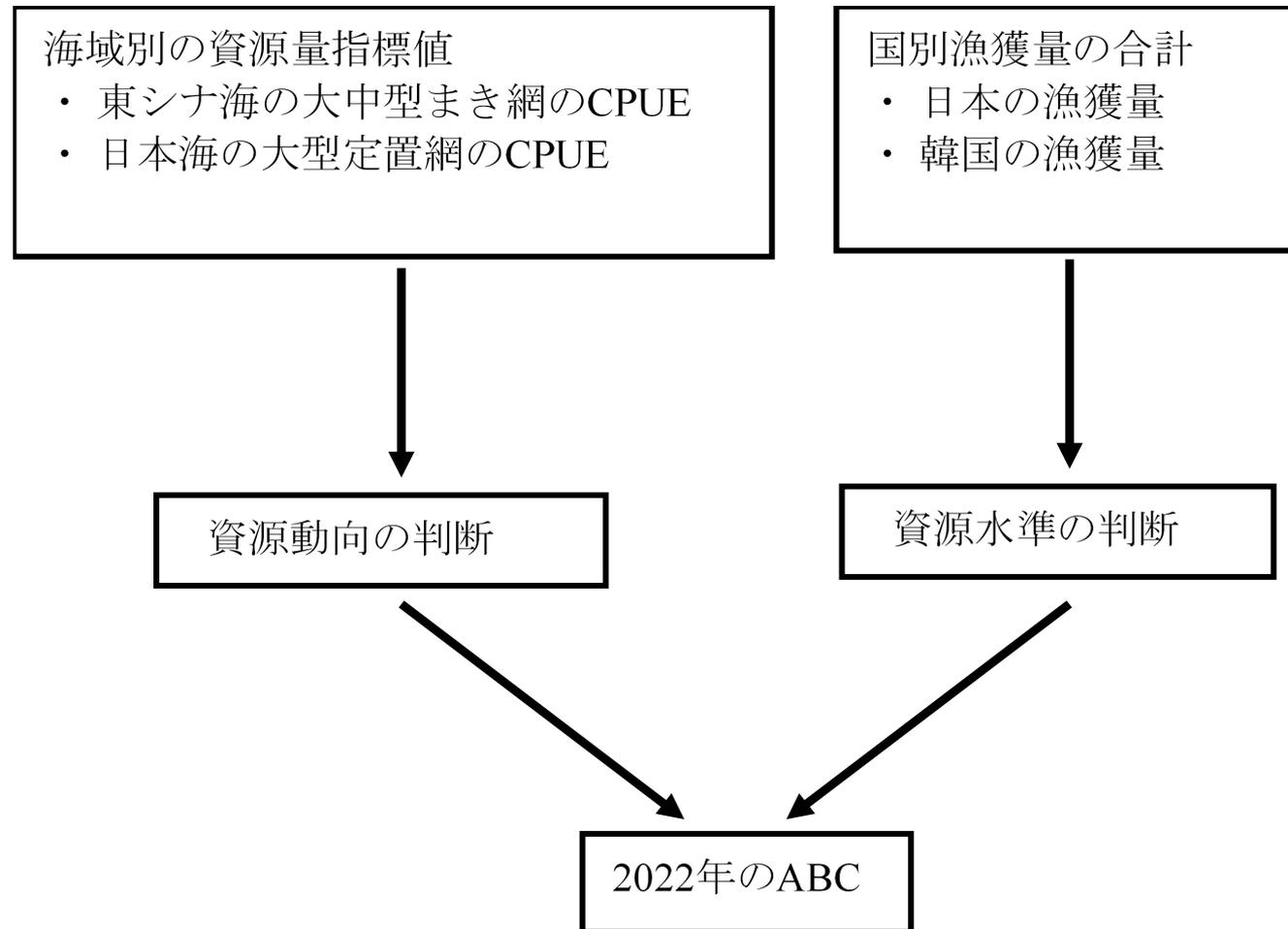


日本海の大形定置網CPUE

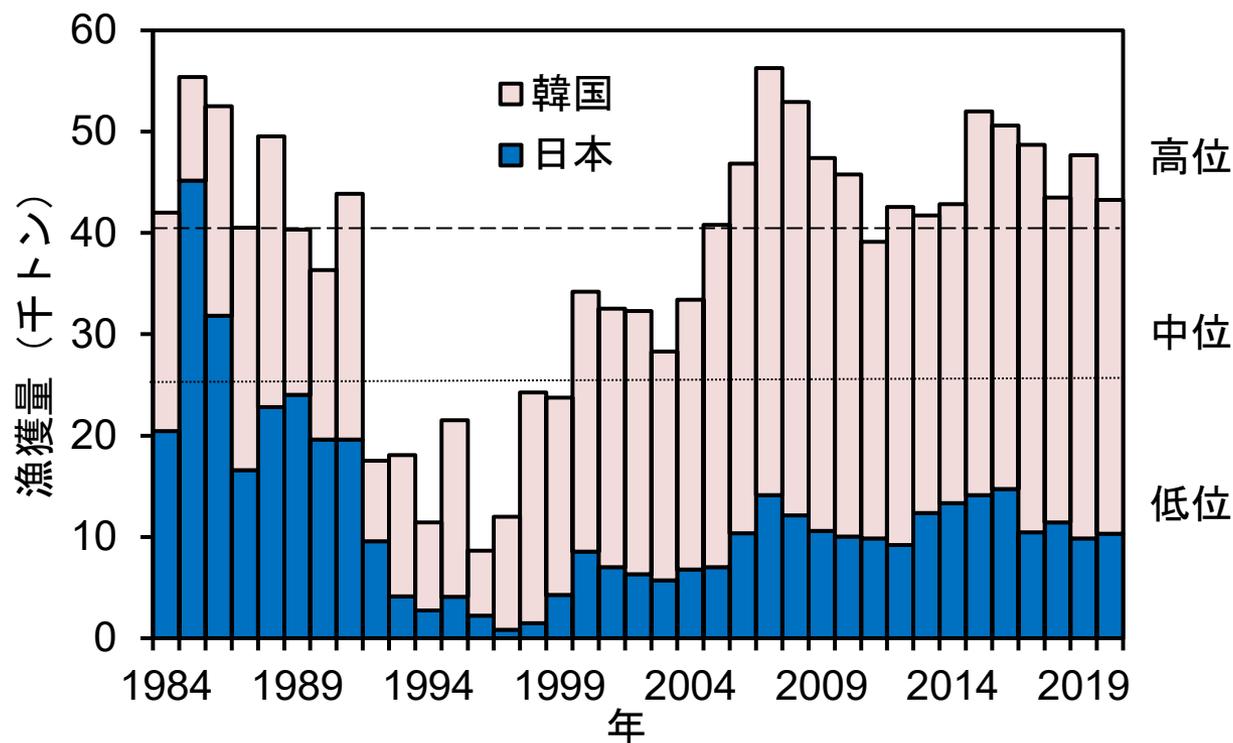
- 東シナ海では小銘柄（～1,500g）が漁獲の主体
- 2020年の大中型まき網CPUE¹⁾は26kg/網で1997年に次ぐ低さ
- 日本海（富山県・石川県・福井県・京都府）では、漁獲量の8～9割が大型定置網による
- 2020年の大型定置網CPUE²⁾は33.7トン/統

1) 1回操業あたりの漁獲量 2) 1漁労体数あたりの漁獲量

資源評価の流れ



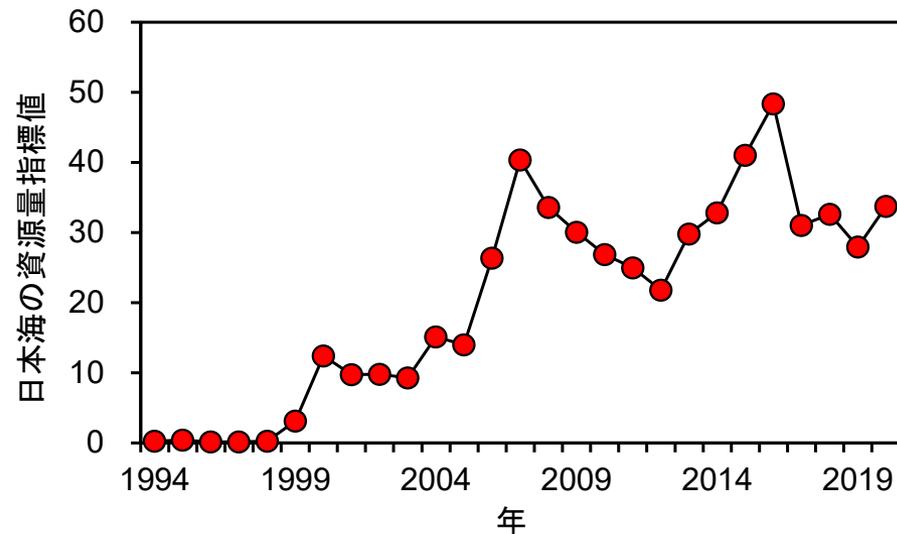
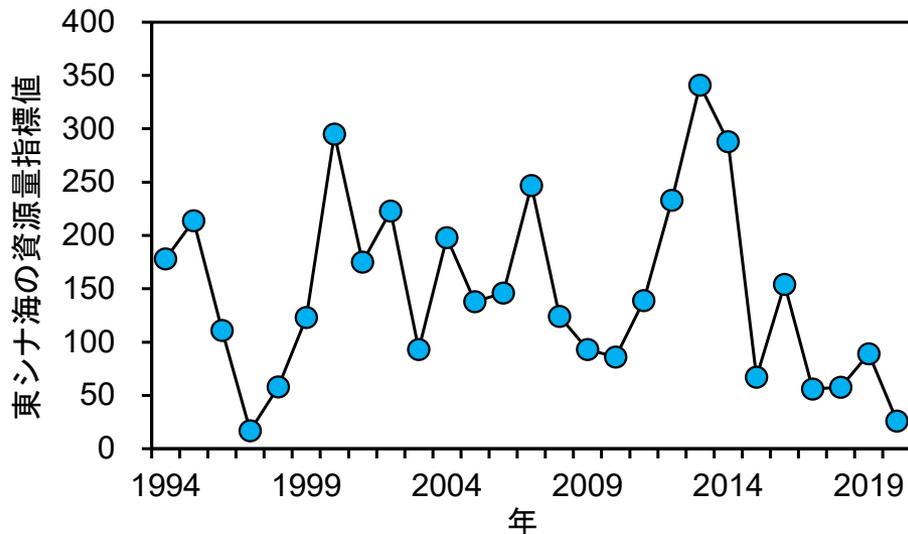
資源の動向①



※水準区分 低位／中位：24,517トン 中位／高位：40,410トン
(最小値(1996年)と最大値(2007年)の間を3等分して水準判断)

- 日本と韓国の合計漁獲量から判断
- 資源水準：2020年の合計漁獲量は43,278トンであり「高位」

資源の動向②



- 東シナ海の動向は大中型まき網の1回操業あたりの漁獲量（CPUE）から判断
- 日本海の動向は大型定置網（富山県・石川県・福井県・京都府）の1漁労体数あたりの漁獲量（CPUE）から判断
- 系群全体の資源動向：直近5年間のCPUEの推移から「減少」

資源評価のまとめ

- サワラ東シナ海の資源水準は高位、動向は減少
- 日本と韓国の合計漁獲量より水準を、東シナ海と日本海の資源量指標値の推移から動向を判断
- 海域ごとのABCを算定し、合算して2022年ABCを求めた

2022年ABC

管理基準	Target/Limit	2022年ABC (百トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値からの増減%)
1.0・C2020 _{ECS} ・ 0.73	Target	80	—	—
1.0・C2020 _{JS} ・ 1.02	Limit	100	—	—

- ・ ABC算定規則の2-1) により、 $ABC_{limit} = \delta 1 \cdot C_t \cdot \gamma 1$ で計算
- ・ $\delta 1$: 東シナ海、日本海ともに1.0 (高位水準での標準値)
- ・ C2020_{ECS} : 2020年の東シナ海の漁獲量
- ・ C2020_{JS} : 2020年の日本海の漁獲量